

平成 28 年(2016 年)度 JICA 青年研修・タイ母子保健実施管理コースを終了

佐久大学では、7/14－7/27、JICA 青年研修・タイ母子保健実施管理コースを JICA 駒ヶ根から受託し、上田市の協力を得て実施しました。JICA 青年研修の目的は、政府開発援助 (ODA) の枠組みの中で「次世代の保健医療を担う若者（25 歳～35 歳）を日本に招へいし、日本の知見と経験を生かした研修プログラムにより学んでもらうことです。」この研修には、タイから 14 名（うち看護師 9 名、リプロを含む母子保健業務に関わる行政官 5 名）が参加。

まず、長野県立こども病院、JA 篠ノ井総合病院での研修をはじめ、上田市における「7 ヶ月健診等を含む」母子保健プログラム、上田市立産婦人科病院（WHO 指定 Baby Friendly Hospital）での研修、上田市立第二中学校における「いのちの学級」見学、東御市では、「東御市立助産所とうみ」で両親学級を見学、佐久市では、開業助産師による「母乳育児、妊婦の健康管理等」、佐久大学では、助産別科の教員による「新生児の心肺蘇生と実習」等、母子保健プログラム全般に渡る研修が実施されました。

参加者は、産前産後のケアのみならず、タイで課題となっている「望まない妊娠を減少させる取組み」、その関連で乳児院、孤児院における看護師の役割などにも質問が及びました。タイと比較すると回数が多い日本の妊婦健診プログラム、自然分娩率が高いこと、母乳育児の割合が高いこと等も評価されました。最終的なグループのアクションプランとして取り上げられたのは、「タイにおける望まない妊娠を減少させる取組み」でした。この要因は 14 名の参加者が日本で学んでいく中で類似する母子保健医療サービスが提供されている両国で、「なぜタイの方が望まない妊娠の数が多いのか？」という疑問でした。

週末プログラムでは、上田市、上田高校（Global High School 指定校）との交流を通し茶道の体験、上田城見学、佐久大学学部生との地域散策（ぴんころ地蔵尊、地域の夏祭り見学）で盛り上がりました。



県立こども病院、院内学級見学



JA 篠ノ井病院小池健一院長と講義後の記念撮影



「東御市立助産所とうみ」、黒澤院長との討議



上田高校で「茶道部」のみなさんと写す



佐久市、佐口助産師さんから妊婦の骨盤の健康について学習中



上田市、母袋市長を表敬訪問



上田市立産婦人科病院村田院長、塚田副師長と共に



於佐久大学、新生児心肺蘇生の演習



7/26, 2016, JICA、及び佐久大学関係者が出席して閉講式が行われました



送別会では、すてきなタイダンスを披露